

阪神港 1—6月コンテナ 神戸・大阪とも回復傾向

阪神港（神戸港、大阪港）の2021年1—6月累計のコンテナ取扱個数（最速報値、空コンテナ含む）が出そろった。輸出入合計は神戸、大阪両港ともに前年同期比で

2%超の増加となるなど、コロナ禍を経て復調傾向にあるほか、神戸は輸出と、神戸港の1—6月累計の輸出入合計のコンテナ取扱個数は105万6507TEU、大阪港は同102万9696TEUで、それぞれ2%増だった。

神戸市港務局、大阪港務局の各まとめによると、神戸港の1—6月累計の輸出入合計のコンテナ取扱個数は105万6507TEU、大阪港は同102万9696TEUで、それぞれ2%増だった。21年に入り空コンテナの扱いが減ったが、実入りに限ると輸出は10%増の20万4797TEUを記録するなど変化の兆しもある。

取扱個数の減少は限定的だった。21年に入り空コンテナの扱いが減ったが、実入りに限ると輸出は10%増の20万4797TEUを記録するなど変化の兆しもある。関西発着のコンテナ貨物増勢には、輸出入とも中国関連貨物の需要伸長が奏功している。さらに東南アジア発着の上積みへの期待感もあったが、足元ではコロナ禍の再拡大によるロックダウン（都市封鎖）の影響が懸念されている。

神戸は輸入が0・1%増の48万8727TEUだったのに対し、輸出が4%増の56万7780TEUと、輸出の回復が底上げに寄与。一方、大阪は輸入が5%増の57万12TEUに対し、輸出は0・4%減の45万9684TEUだった。

米中間の貿易を巡る緊張や新型コロナウイルス感染症問題の表面化を受けて、20年の神戸港は輸出コンテナの需要低迷の影響を受けた。ただ21年の年明け以降は、米中間の貿易拡大や世界的な巣ごもり需要の中、同港出し輸出は回復している。

かねて輸入主体の大阪港は、国内主要港がコロナ禍の影響を受ける中で